

令和6年度 第3回学校運営協議会 会議録

みよし市立緑丘小学校

1 開催日時 令和7年2月13日(木) 13:40~14:50

2 開催会場 本校校長室

3 参加者

三ツ本 隆 様 (地域学校協働活動推進員)

松井 志夫 様 (三好丘緑区長) 河北 圭一郎 様 (三好丘桜区長)

伊藤 正彦 様 (ひばりヶ丘区長) 山田 隆夫 様 (三好丘緑いきいきクラブ会長)

川瀬 志乃 様 (前PTA会長) 三宅 敬子 様 (現PTA副会長)

※ 中馬 肇子 様 (元PTA副会長・読み聞かせミルキーポケット会員)

落合 美紀 様 (前PTA副会長) 上田 光宜 様 (現PTA会長) は欠席

(学校側) 校長 江上 俊郎 教頭 前川 直子

4 日程

(1) 授業参観 13:40~14:00

(2) 協議会 14:00~14:50

- ・ 令和6年度後期の取組について(校長)
- ・ 令和6年度学校評価、正課クラブの取組について(校長・教頭)
- ・ 令和7年度グランドデザイン(案)、新たな取組について(校長)
- ・ 協議、承認

5 協議内容等の報告

(1) 令和6年度後期の取組について(別紙「令和6年度第3回学校運営協議会報告・協議資料」参照)

- ・ 【別紙1】に示した通り、地域コーディネーターを中心に出席授業、体験活動などを多く企画、運営し、充実した教育活動を行うことができた。

(2) 学校評価アンケート結果・分析報告

【教職員】

- ・ グランドデザインを指針とし、「緑丘小の子どもたちには力がある」を合言葉に、授業、生活、学校行事の指導・支援に取り組むことができた。
- ・ 異学年交流により、子どもも教職員も一体になって学校生活に取り組んでいることを意識する教職員が増えた。
- ・ 健康教育に関して、出席授業や養護教諭、スクールカウンセラーによる学校保健委員会での学び、体育委員会や保健委員会による取組などが子どもたちの意識によい影響を及ぼしていると、教職員が実感している。
- ・ 「研鑽を積んでいる」「分かる、楽しい授業づくり」について、「学び合いのある授業づくり」の研究が3年目となり、それぞれの取組が充実してきたと教職員が手ごたえを感じている。

【児童】

- ・ 多くの項目で、子どもたちが前向きに学校生活を送っていることが表れている。

- ・ 「時間・きまりを守っていますか」の項目が大きく改善したが、これは授業や生活のきまり「みどりのいっぽ」に取り組み、子どもたちが振り返りをし、自己評価を定期的に行ったことで、子どもたち自身の意識が高まったと考えられる。

#### 【保護者】

- ・ 「運動を通じた体力づくり 食・性・心に関する指導等」について評価が高くなったのは、地域の方たちや市役所各課による出前授業を多く取り入れ、内容が充実していたという評価と考えられる。

(ここからは自由記述について…)

- ・ 書写の授業における服装への配慮、各教科のテストを事前に伝えることで見通しをもった学習を生み出すように努める。また、みどりっ子フェスタについては、子どもたちの出番を多くし、保護者の方により多くの学年の取組を参観していただく形に改善していく。
- ・ タブレットについて、今年12月更新することもあり、動作等はしばらく辛抱していただきたい。持ち帰りについて、毎日持ち帰る学校も増えてきたが、本校は重さ、使い過ぎによる視力低下なども考え、週1回で取り組んでいる。業間や昼放課のタブレットの使用について、今後は雨天など運動場が使用できない場合に限ることとする。市図書館より、タブレットで電子図書の閲覧が可能になるという話もあり、有効な活用方法を探っていきたい。
- ・ 正門周りが汚いというご意見をいただき、6年生の清掃ボランティアの子と高圧洗浄機で清掃を始めた。清掃ボランティアの子どもたちはとても一生懸命に取り組んでくれる。卒業式までにきれいにできたらと考えている。
- ・ 子ども同士のトラブルについて、被害児童、加害児童の保護者には事実と指導内容について伝えている。家庭と連携して、同じことが繰り返されないようにしたい。
- ・ 業間、昼放課の教室・スペースでの過ごし方について、学年により指導の食い違いがあったため、職員で再確認した。マナーを守りながら、楽しく過ごすことができるようにしていく。
- ・ 指導の至らない部分があるため、今後も保護者の方と連携しながらよりよい指導・支援に努めていきたい。

#### ○ 質問・意見

- ・ 【児童】の「1 学校は楽しいですか」などの結果は、「よくあてはまる、だいたいあてはまる」の結果が93%程度で前年までと同じか微増であるが、【教職員】の「1 教育目標 学校の教育目標は妥当であるか」の結果が、「あてはまる」が約24%増の87.5%となった要因はどういったものか。

⇒ 令和4年度末からランドデザインを教職員に示し、内容を修正しながら3年間取り組んできた。何をめざすのかがはっきりし、教職員が取り組みやすくなったのが要因の一つではないかと考える。

それに加え、地域学校協働活動で出前授業、体験活動が充実し、子どもたちのよい変化に加え、教職員も自身の学びが増え、それを日々の指導・支援に還元できているという自信をもつことができたことも、大きな要因と考える。

- ・ 保護者へのフィードバックの方法はどういったものか。
- ⇒ 昨年度も同様に行っているが、この学校運営協議会を経て、きずなメール、HPに掲載する。特に、学校側の対応について、周知できるようにする。

### (3) 正課クラブについて

- ・ 八つの正課クラブでスタート、最後の機会となる6年生の希望をかなえるように所属クラブを決めたため、活動が合わない子もいたことは反省である。
- ・ 次年度は子どもたちの人数が増えることもあり、サイエンス・ボッチャのクラブを追加して活動できるようにする。できる限り一人一人が取り組みやすいクラブに所属できるよう、所属人数を柔軟に決定し、適応できない子がいた場合は、校長等が第二のクラブを運営し、少しでも活動しやすい環境を整える。
- ・ 本取組は、県内でも多くない事例であり、市内小学校へ広げていくようにしたい。

### (4) 令和7年度を取組について

#### ア グランドデザイン案について

- ・ キーワードは「つなげる」
- ・ 情報モラルにとどまらず、SNS等を賢く活用するためのデジタル・シティズンシップ教育を、計画的に取り組んでいく。
- ・ 給食試食会の試行も実施し、好評を得ている。来年度は、試食会はもちろんのこと、食に関する指導も充実させていきたい。
- ・ なかよしそうじを柱とした異学年交流を継続する。6年生を中心とした避難訓練は他校に先んじて取り組んでいることであり、5年生が引き継いで取り組んでくれるはずである。
- ・ 来年度は地域コーディネーターを4名にし、活動を振り分け、より充実した活動にしていきたい。
- ・ PTAとも連携し、子どもたちの夏季休業中の居場所づくりに取り組んでみたい。
- ・ 子どもたちにとっても、教職員にとっても、前向きに生活することのできる学校をめざし、学年担任制とそれに伴う教育課程の改訂に向けて検討していきたい。

#### イ 子どもたちの夏季休業中の居場所づくり

- ・ プール開放については多くの課題があるが、市教委とも連携し、スクールロイヤーの見解も確認しながら、取り組めるのならがんばりたい。
- ・ 学習会は、本校を卒業した中学生にボランティアを依頼したいと考えている。中学校の部活動の日程も影響するため、北中、北中地域学校協働本部と連携していきたい。

#### ウ 学年担任制とそれに伴う教育課程の改訂

- ・ 昨年12月末に文部科学省が公表した「小学校の授業、1コマ5分短縮で40分に 学習指導要領改定を諮問」のモデルとなった、兵庫県川西市立多田小学校を校長が朝から1日視察し、教職員、子どもたちから直接意見を聴いた。学年担任制を実施することで、一人で学級を全て指導・支援し保護者の対応をするよりも、学年部の先生方で学年全員の子どもたちを指導・支援することで、一人で抱え込むこともなく、チームで対応できるため、安心して取り組める。さらに、自分には気付かない子どもたちのよさに気付き、より前向きに指導・支援に取り組めることが分かった。子どもたちは、午前中5時間授業であっても、より集中して取り組めると話していた。
- ・ 学年部で子どもたちの情報を共有する時間を確保するため、下校時刻が早くなっており、子どもたちが下校すると職員室で学年部会が開かれる。ここで情報を共有し、指導・支援に違いがないようにしている。
- ・ 本校でいう「みどりっ子タイム」という20分の帯時間に、5分短縮した授業の基礎学習に取り組む。例えば、算数の授業で取り組む練習問題を、この時間に集中して学び合いながら取り組む。また、6時間目と合わせて総合的な学習の時間に取り組み、ゆっ

たりとした時間で探究学習に取り組むことができる。

- ・ 来年度すぐ取り組むのではなく、検討委員会を開き、保護者の方たちにもアンケートをさせていただきながら、実現をめざしていきたいと考えている。

#### ○ 質問・意見

- ・ 学年担任制で、担任が入れ替わることで児童が不安になることはないか。それ以上に、先生方の負担が増えてしまうのではないか。  
⇒ 視察した際、先生方に伺ったところ、「今までより断然学年担任制の方が負担は少なく、取り組みやすい」という意見であった。これまでは、一人の先生が担任する子の保護者と一対一で対峙しなくてはいけなかったが、学年担任制では保護者の対応を学年部で受ける形になり、一人で抱え込むことはなくなる。また、多くの眼で一人一人の子どもを見るため、自分には気付けない発見もあり、指導がしやすくなったと話していた。子どもたちの関係が良好になり、先生方がより指導・支援に意欲的になったと聴くことができた。
- ※ これまで、先生お一人お一人の負荷がまちまちであったものが、チームで取り組むことによって、負荷が平準化されて勤めやすくなるのだと感じた。  
⇒ それによって、先生方がより働きたいと前向きになった、もっと子どもたちを活躍させたいと思えるようになったと話してみえた。
- ※ 大学を卒業した新卒の先生がいきなり担任になり、右も左も分からない中で取り組むことを考えると、ぐっと負荷が下がり、取り組みやすいのだと思う。  
⇒ 経験の浅い先生も力を付けて成長していったほしいので、学年担任制は教師の力量を高める点でも効果的である。  
もちろん、最も大切にすべきは子どもたちなので、担任がころころ変わって不安に感じさせてはいけないので、低学年は学級担任の形をとり、中学年以上は2週間や1か月などの間隔をベースに、子どもたちの様子で柔軟に対応していきたい。懇談会は、毎回違う先生が担当し、1年の中で学年全員の先生が保護者の対応をしていく。

#### ○ 全体を通して

- ・ コミュニティ・スクールがスタートして2年が経つが、学校の運営についてグランドデザインを明確に示し、先生方が理解したうえで取り組んでいることが、良好なアンケート結果に表れている。また、地域の方たちが参画して、出前授業や体験活動に取り組んでいるが、子どもたちの反応を見ると、知らないこと、教科書にも載っていないことを直接教えていただけるため、より興味をもって授業を受けているのが分かる。来年度からはコーディネーターが4名に増えるため、夏季休業中のプール開放など難しい課題も、分担して取り組んでいくことができると思う。

#### 6 添付資料

- ・ 学校運営協議会要項
- ・ 「令和6年度第3回学校運営協議会報告・協議資料」